

■谷川さんへ故郷の声の便りを届け続けた「かしの実グループ」



健康福祉会館録音室で広報かさいを収録するかしの実グループのメンバー

朗読ボランティア「かしの実グループ」（永瀬未香代表）は、広報かさいなどを朗読して収録したCDを谷川さんへ送り届けていました。永瀬さんは「谷川さんが何度も聞き直し、楽しみにしていることを知り、うれしい思いでやりがいがありました。訃報を聞き、悲しい思いでいっぱいです。これからも目の不自由な方や寝たきりの方など、情報を楽しみにしている方がいる限り、活動を続けていきたい」と話されました。

同グループは、昭和53年に発足し、現在は25人で活動。広報かさいや新聞記事などを朗読して収録したCDを、目の不自由な方に無料で届けられています。また、研修での技術向上や、介護施設を訪問して朗読劇をしたり、歌を歌ったりして交流を深めています。CDを希望される方がありましたら、加西市ボランティア・市民活動センター（☎43-8133）までお問い合わせください。

■加西市の取り組みと今後

今も残るハンセン病に対する誤った認識を払拭し、ハンセン病回復者やその家族に対する差別解消を目的として、長島愛生園を訪問する人権バスツアーを平成17年から毎年実施しています。

長島愛生園歴史館や敷地内施設の見学、入所者の話を聞き、ハンセン病差別で苦しめられてきた回復者の悲しみや怒りを肌で感じる機会となります。また、谷川さんと長年親交がある方は、直接お会いし交流を深めてきました。



バスツアーに参加した中・高校生が納骨堂で献花

平成18年3月には北条高校で、谷川さんに講演していただき、生徒たちは隔離されていた島の過ちを繰り返してはいけないとの思いを受け取りました。

また、北条高校放送部の生徒が、平成26年11月に長島愛生園を訪れ、差別と偏見に苦しんだ谷川さんと向き合い、ラジオドキュメンタリーにまとめました。



北条高校放送部の生徒が谷川さん取材

平成28年12月には、ハンセン病回復者およびその家族に対する差別解消を目的に「映画『あん』上映会&トークショー」を、健康福祉会館で開催しました。今後も加西市は、ハンセン病問題を正しく知ってもらうための啓発事業を継続していきます。



毎年愛生園で、市の状況について話をする谷川さんと西村和乎市長

■編集後記／谷川さんが亡くなられたことを受け、あらためてハンセン病問題を考える特集を組みました。長島愛生園では高齢化が進んでいます。私たちの役割は、このような差別があったことを後世に伝えることではないでしょうか。取材を通じて、当時の苦しい思いや生活を知りました。現在、後遺症は残るものの、普段の生活を笑顔で語られた石田さんの表情が印象的です。治療法が確立された時点で、人々がハンセン病のことを正しく理解していれば、差別・偏見のあった時代は変わっていたのではないのでしょうか。私たちが生活している中で、どんなことでも正しく理解しようとしているかを考えてみてください。そして、新しい差別・偏見がおこらないよう、長島愛生園を訪れ、当時の時代を肌で感じてみてください。